

カンボジア王国、インドネシア共和国、タイ王国でそれぞれ実施する、つくば市内の3つの研究機関による国際共同研究の採択が決定。

共に「知」を総合する科学技術協力～2023年度採択結果の発表

国際協力機構（JICA）、科学技術振興機構（JST）、日本医療研究開発機構（AMED）の三者が実施する「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）※1」において、つくば市内にある3つの研究機関の事業が新たに採択となりました。

つくば市内にある、国際農林水産業研究センター、筑波大学、農業・食品産業技術総合研究機構の3つの研究機関はそれぞれ、カンボジア王国、インドネシア共和国、タイ王国で国際共同研究を実施します。

国際農林水産業研究センターが実施するカンボジア王国での事業は、地球規模のカーボンニュートラル課題の解決に資する研究となっています。トンレサップ湖のメタンの排出削減につながる水田水管理システムを構築するもので、気候変動緩和と農家の生計向上が期待される事業です。

筑波大学が実施するインドネシア共和国での事業と農業・食品産業技術総合研究機構のタイ王国で実施する事業は、どちらも地球規模の生物資源課題の解決に資する研究です。前者は、世界第2位の生産量を誇るインドネシアの海藻を対象とし、環境負荷に配慮しつつ海藻産業の技術の開発を目指すもので、食と健康への貢献、さらに雇用創出と経済発展が期待される事業です。後者は、タイにおいてカンキツ類の最重要病害の一つであるカンキツグリーニング病（HLB）を、鉄資材を用いることで植物の生理条件を改善し、カンキツの安定生産を行う新たな技術の確立と現地農家の経済的自立を計画しています。

大学の先生へのご取材も調整可能ですので、ぜひご検討ください。

日本側研究機関	相手国名・相手国研究機関	事業名	SDGs 項目
国際農林水産業研究センター 研究代表者： 泉 太郎 プロジェクトリーダー	カンボジア王国 王立農業大学	トンレサップ湖西部水田における広域的水田水管理システムの確立による温室効果ガス排出削減技術の開発と社会実装 （カーボンニュートラル領域）	  

筑波大学 研究代表者： 市川 創作 教授	インドネシア共和国 国立研究イノベーション庁 海洋・陸上バイオインダストリー研究センター	ブルーエコノミー達成のための持続可能な海藻由来機能性食品の開発 (生物資源領域)	
農業・食品産業技術総合研究機構 研究代表者： 井上 晴彦 上級研究員	タイ王国 高地研究所	熱帯山間地における小規模農業経営自立のための植物生理活性物質によるカンキツの持続的安定栽培技術開発 (生物資源領域)	

<※「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)」とは>

SATREPS は、外務省と文部科学省の支援のもと、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) と JICA が連携して実施し、日本の優れた科学技術と ODA との連携によって、開発途上国との科学技術協力、科学技術外交を推進するプログラムです。環境、カーボンニュートラル、生物資源、防災および感染症といった地球規模課題の解決に向け、課題の解決につながる新たな知見・技術の獲得やイノベーションの創出、さらには開発途上国の自立的な研究開発能力の向上と課題解決に資する持続的活動体制の構築を図ることを目的としています。2023 年度は、12 件の事業が採択とされました。2008 年度の事業開始以降、採択事業数は計 191 件、実施国は 56 カ国となります。

2023 年度「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)」新規採択案件の決定について：https://www.jica.go.jp/press/2023/20230518_41.html

SATREP 概要：<https://www.jica.go.jp/activities/schemes/science/summary/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】

JICA ガバナンス・平和構築部 STI・DX 室 中島由希子
 TEL 03-5226-8105 e-mail : gpgsd@jica.go.jp